

# 同志社大学

## 2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年 3 月 10 日提出

所 属	職 名	氏 名
文学部	教授	塩尻 恭子
研 究 題 目	演劇メタフォアと演劇	
研 究 成 果 の 概 要	<p>「世界は舞台」「人生は芝居」「人は役者」というトポスが思想史の流れに沿って古代ギリシャから現代まで微妙に変化した軌跡を大雑把に把握した上でシェイクスピアの『リア王』を検討し、次には現代劇へ移ろうと考えたが、シェイクスピアに再度どっぷり浸かりたいという欲求が強まり、彼の戯曲を再読するに終わった。18世紀の啓蒙主義を経て、ニーチェに「神は死んだ」と言わせた西洋史の流れ、これに対する批判が強まった 20 世紀後半の流れの終わりに、21 世紀の今が位置する。今こそ、もう一度シェイクスピアを本気で読み、彼を再発見できるのではないかという認識に至った。</p>	